

アロマと自然療法の学際的専門誌

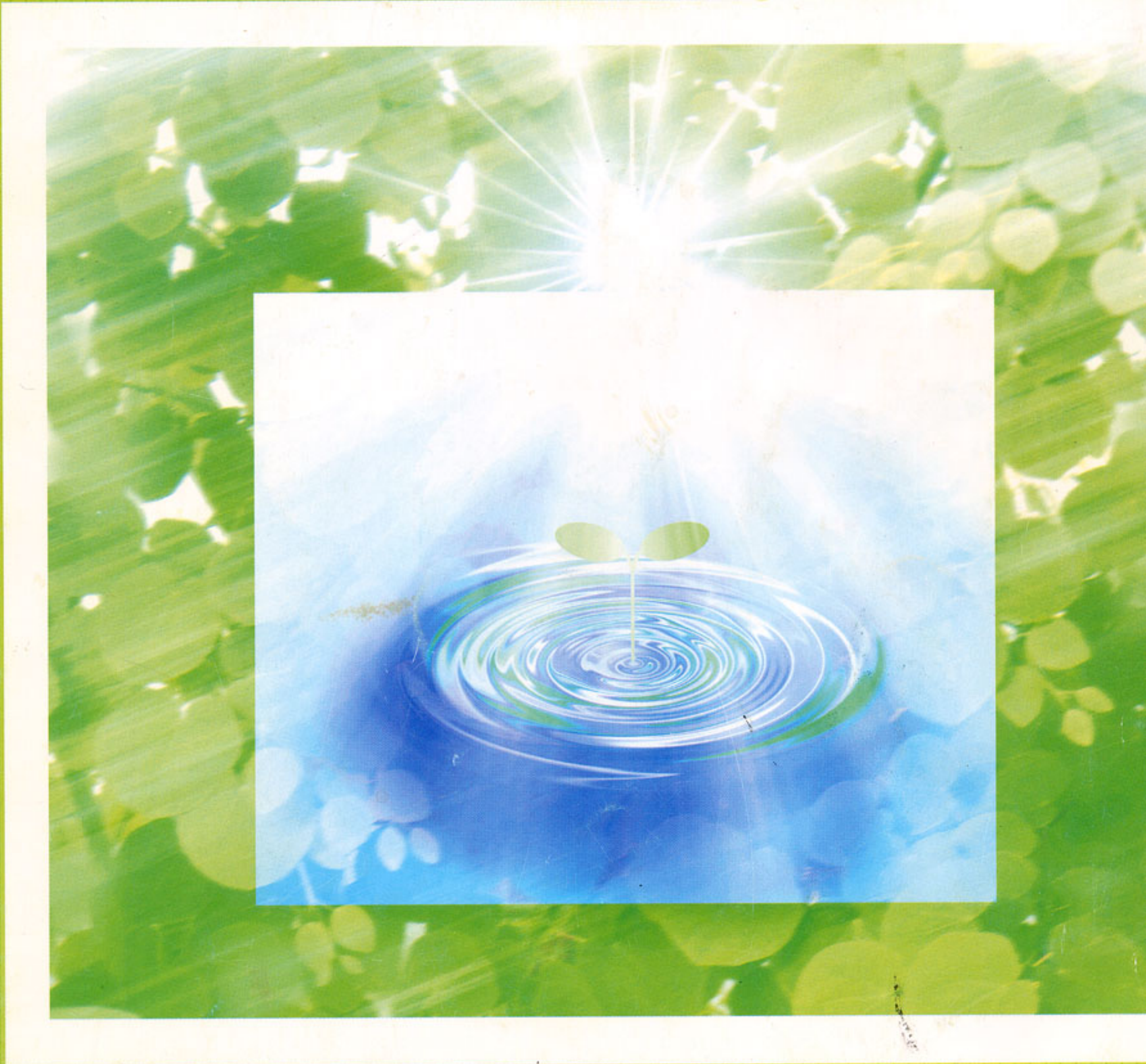
aromatopia

The Interdisciplinary Journal of Aroma & Natural Medicine

vol.13/no.3/2004

アレルギー：
アロマセラピーの可能性を探る

64



クndan・メーター女史に聞く インディアンフェイスリフトマッサージ (ナチュラルフェイスリフトマッサージ) ～プラスアルファの技術として



オイルを用いずに行う英国発祥のフェイシャルマッサージ - インディアンフェイスリフトマッサージ (ナチュラルフェイスリフトマッサージ) が、日本で初めて紹介された。この技術の創始者であるクndan・メーター女史は、ナレンドラ・メーター氏 (インディアンチャンピサーの第一人者。クndan女史の夫でもある。) と共に来日し、2004年1月22～25日の4日間にわたる講習会を行った。講演会に先立ち、女史にお話をお伺いする機会を得たので、インディアンフェイスリフトマッサージの発祥経緯や、特長などについてインタビューをさせて頂いた。(通訳：堀田みち子)

◆ビューティーセラピーとレイキの融合

ーももとは、どのような経歴をお持ちなのですか。

クndan・メーター女史 (以下K)：インドでは舞台女優として長年活動をしていましたが、メイクアップアーティストであった父親の死後、彼のビジネスを引き継いでメイクアップの仕事に関わるようになりました。1994年の結婚を機に英国に渡ったのですが、やはりビューティー分野に一番興味があったので、エステティックやレイキ、ヘッドマッサージなどを学んだのち、ビューティーセラピストとしてロンドンで仕事を始めました。

ーその後、インディアンフェイスリフトマッサージ (以下、フェイスリフトマッサージ) を開発された経緯を教えてください。

K：サロンワークをしていく中で、特に目のまわりのクマやたるみ・しわなどのリンクルケアに注目しており、より効果的な方法はないかと様々な新しいクリームを試していたのですが、あるとき逆の発想でクリームを全く用いない方法はどうかと思いついたのです。その発想をもとに、レイキなどのエネルギーワークも取り入れて完成させたオリジナルのテクニックが、フェイスリフトマッサージです。

◆ソフトタッチのオリジナルテクニック

ーフェイスリフトマッサージではどのようなケアを目的にしているのですか。

K：目の周りのクマ・たるみ・しわなどのリンクルケアを中心としたお顔のアンチエイジングが主な目的です。基本的には、顔面のリンパや血行を改善することで外面的な若返りを導くためのテクニックですが、それと同時に、顔だけではなく全身のリラックスが得られるような工夫をしています。身体全体に現れる良い変化の結果として、外側の美容が生じるという自然療法の考え方に基づいているのです。

ー手技の特徴を簡単に教えてください。

K：施術はトータルで約1時間かけてゆっくりと、なでるように優しいストロークで丁寧なタッチを繰り返し施していきます。フェイスリフトマッサージの特徴とも言えるこのソフトタッチによって、結合組織にダ



夫ナレンドラ・メータ氏 (左) と

イレクトに働きかけ、血流やリンパの滞りを改善することができるのです。それと同時に、全身がとてもリラックスできるタッチでもあります。

ートリートメント時にオイルを用いないのはなぜですか。

K：オイルを用いると指先だけが滑ってしまい、この手技に必要な微細なストロークが施しにくいからです。
ー全身に対するアプローチというのは、どのように行われるのですか。

K：施術は顔面に対してのみ行うのですが、全身のリラックスが得られるように、必ずマッサージベッドに

横になってもらいます。また、足裏と同じように顔面には沢山の反射区があるので、その人に合わせて必要な箇所を刺激していくことで、身体全体へアプローチすることも可能なのです。



◆プラスアルファの技術として

ーフェイスリフトマッサージは英国ではどのような受け入れられ方をしているのですか。

K：主にビューティーサロンなどで働くアロマセラピストやエステティシャンをはじめとして、あらゆるセラピストがプラスアルファの技術として学ぶケースが増えてきました。自分のサロンメニューにプラスできるような、新しいテクニックを求めているセラピストというのは非常に多いですからね。

ー実際、他のセラピーと組み合わせるとどのようなメニューづくりが可能でしょうか。

K：フェイスリフトマッサージはオイルを用いないテクニックなので、例えばアロマセラピーなどのオイルトリートメントと組み合わせる場合、まず初めにフェイスマッサージをやってからアロマセラピーのトリートメントに移行するという順序が良いでしょうね。逆に、椅子に座ったまま行うインディアンチャンピサージのようなテクニックと組み合わせる場合は、フェイスリフトマッサージを後に行う方がリラックスできると思います。また、オイルを用いないリンパマッサージなどの場合は、全身の施術にフェイスリフトマッサージを組み込んで、顔面部分の施術にウェイトを置いてみるという方法も良いかもしれませんね。

ー日本でフェイスリフトマッサージの技術を紹介するのは今回が初めてということですが、これから日本のセラピストにどのようなことを伝えていきたいですか。

K：日本には、もともと指圧などで正確な位置を押すという卓越した技術があることも影響しているのか、セラピストの技術レベルがとても高いと感じています。そういう意味で、プラスアルファのテクニックを取り入れてもらうためにとても良い下地があると思いますので、ご自身のサロンワークに役立てて頂けるよう、できるだけ沢山のセラピストの方にこの技術をご紹介していきたいと考えています。

取材協力：L. C. I. C. 日本校（アロマティックルポ内） Tel/Fax 048-775-5835

<http://indian-champissage.com/>